

マネジメントサマリー:自然資本(生物資源・水資源)

自然資本と“場所”の認識

気候変動と自然資本の統合的理解と開示

2021年5月に、Finance for Biodiversity (F4B)イニシアチブが発表した「The Climate-Nature Nexus: Implications for the Financial Sector」では、気候変動と自然資本を別々に捉えるのではなく、統合的に考慮する「The Climate-Nature Nexus」の考え方が強調されています。キリングループの事業は自然資本に依存する事業であり、TCFD提言に基づくシナリオ分析を行う中でも、気候変動が原料農産物や水に大きな影響を与えることを理解してきました。環境課題が独立したものではなく相互に関連していることを前提に、統合的(holistic)に解決するのがキリンのアプローチであり、「The Climate Nature Nexus」の主張は、私たちが目指してきたことそのものと言えます。今後は、TCFDとTNFDのフレームワークを使いながら、統合的な開示を進めていきたいと考えています。

“場所”に注目したLEAPアプローチ

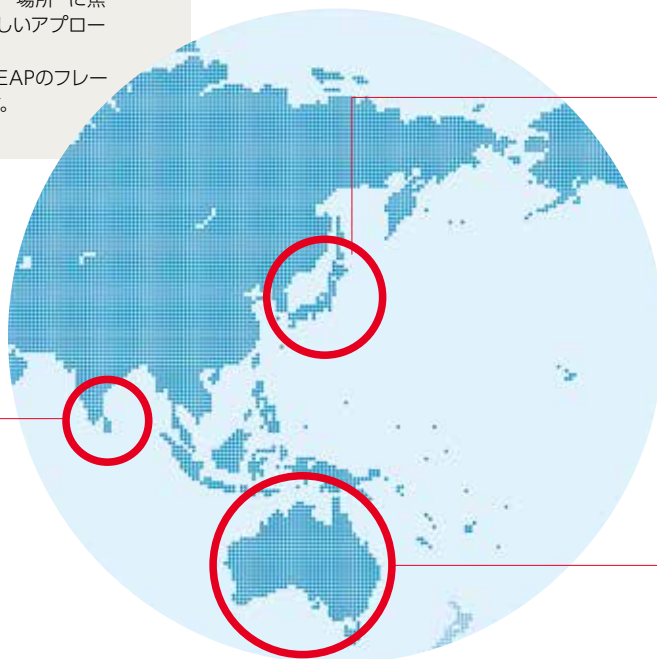
LEAPアプローチでは、自然との接点を発見する(Locate)、依存関係と影響を診断する(Evaluate)、リスクと機会を評価する(Assess)、自然関連リスクと機会に対応する準備を行い投資家に報告する(Prepare)の順で分析アクティビティを行います。“場所”に焦点をあてて自然資本への依存や影響を評価し、優先順位をつけて取り組む新しいアプローチです。キリングループでは、自然資本に依存する企業として進めてきた取り組みをLEAPのフレームワークで整理し、深化させ、適切な開示につなげていきたいと考えています。

“グローバル”と“ローカル”の視点

キリングループは、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議を契機として、生物資源のリスク調査を行い、事業が特定地域の自然資本に依存していることを理解しました。「キリン 午後の紅茶」の主要原料生産地であるスリランカでレインフォレスト・アライアンス認証の取得支援などを開始したのは、この課題を解決するためです。水資源では、比較的水の豊かな日本と水ストレスの非常に大きなオーストラリアで事業を行ってきたことから、水ストレス・水リスクが国や地域によって異なることを早くから認識して取り組みを進めてきました。TCFDのシナリオ分析では、気候変動が特定の地域の自然資本に極端な物理的影響を与えることも確認できました。このような経験から、キリングループは、地球温暖化はグローバルな課題であり全ての企業でGHG排出量削減が必要なこと、生物資源や水資源などの自然資本では“地域”や“場所”によってその特性が異なるためにローカルな視点が必要であることの両方を理解し、TNFD開示フレームワークβ版で示されたLEAP (Locate、Evaluate、Assess、Prepare) アプローチなどを参考に、統合的に取り組みを進めています。

事業への影響が大きく、かつ自然や社会環境上も重要な“場所” ～スリランカの紅茶農園～

- Locate** 「キリン 午後の紅茶」のおいしさを支えるのはスリランカの紅茶農園。農園内に沿岸大都市の水源地が存在
- Evaluate** 日本が輸入するスリランカ産茶葉の約25%を「キリン 午後の紅茶」が使用。茶葉生産地は気候変動により水リスク・ストレスが増大し、豪雨で肥沃な土壌も流出
- Assess** 依存度が高いスリランカ産茶葉が持続可能に使えない場合は商品コンセプトが成立しなくなる
- Prepare** 2013年からスリランカの紅茶農園に対してレインフォレスト・アライアンス認証取得支援を実施。認証取得農園数・トレーニング農園数は環境報告書・Webで広く公開



“場所”が商品の特徴を決める日本ワイン ～梔子ヴィンヤード～

- Locate** ワインの味を決める重要な要素は「テロワール」であり土地の個性。畑は自然が残っており希少種が生息する地域
- Evaluate** 日本ワイン拡大のためにはブドウ畑の拡大が必要であり、対象は遊休荒廃地
- Assess** 遊休荒廃地をブドウ畑にすることで良質な草原が創出され、豊かな生態系に貢献することを農研機構との共同研究で解明
- Prepare** ネイチャーポジティブ、30by30に貢献する。共同研究成果は論文・環境報告書・Webで広く公開

水リスクが高く、水資源管理が特に重要な“場所” ～オーストラリアの工場流域～

- Locate** オーストラリアのビール事業の醸造所は、全て水ストレスの高い流域に位置している
- Evaluate** 経験的にもAquaductなどのツールでも、オーストラリアの水ストレスは非常に高く、数十年に一度、集中豪雨で洪水が発生すると被害が大きい
- Assess** 節水技術はグループ最高レベルだが、渇水が深刻化した場合に製造に支障が出る可能性がある
- Prepare** SBTs for Natureのメソッド開発に貢献し、これに沿った新たな目標の設定を目指す。実績は環境報告書・Webで広く公開

生物多様性を含む自然資本への科学的アプローチ

キリングroupは農産物（生物資源）と水などの自然資本に依存した事業であることを理解し、2011年には生物資源のリスク評価を、2014年にはグローバルの工場流域および主な農産物生産地の水リスク調査を行い、データに基づいた目標設定と取り組みを進めてきましたが、目標設定の方法論が確立していないために経験的な設定に留まっている課題がありました。温室効果ガス削減目標のような科学的な根拠に基づく影響評価と目標設定を行うために、SBTN主催のコーポレートエンゲージメントプログラムに参画し、ルールメイキングにも貢献したいと考えています。SBTNの行動フレームワークで掲げられている「AR3Tフレームワーク」は、キリングroupが原料農作物や水資源が気候変動に脆弱であると考え、物理的リスクや移行リスクに関する各種調査を通じて自然資本への影響も把握してきたアプローチと整合性があると判断し、試行的な評価を進めています。

バリューチェーンの評価、優先順位付け

STEP 1 ASSESS キリングgroupの事業特性を考慮すると、バリューチェーン上流の原料農産物と製造拠点が淡水域と陸域へ与える影響が大きく、かつこれらが淡水域と陸域に大きく依存していると評価しています。

SBTNのAR3Tフレームワーク



STEP 2 INTERPRET & PRIORITIZE 淡水域では、SBTNで示されたメソドロジー案に従って、製造拠点の流域の水量についてのリスク（水ストレス）と、影響（取水量）を調査し優先順位付けを行いました。今後はIUCNレッドリストに基づく生物多様性の2つの指標の結果も参考に優先度の高い製造拠点についてデータを収集し、優先順位付けを見直す予定です。陸域では、原料生産地を調べて自然を棄損していない原料の調達、生産地の持続可能性を高める支援、ポジティブインパクトを与える取り組みなどを、AR3Tフレームワークで整理しました。

試行的な優先順位付け

国	製造拠点	水ストレス	取水量	生物多様性のリスク
アメリカ	Biokyowa	★★★★★	★★★★★	★★★
タイ	Thai Kyowa Biotechnologies	★★★★★	★★★★★	★★★
日本	協和ファーマケミカル	★★★★★	★★★★★	★★★
日本	キリンビール取手工場	★★★★★	★★★★★	★★★
日本	キリンビール横浜工場	★★★★★	★★★★★	★★★
日本	キリンディスティラリー御殿場工場	★★★★★	★★★★★	★★★
日本	協和キリン富士事業場	★★★★★	★★★★★	★★★
オーストラリア	ライオン Tooheys Brewery	★★★★★	★★★★★	★★★
日本	キリンビール 名古屋工場	★★★★★	★★★★★	★★★
中国	上海協和アミノ酸	★★★★★	★★★★★	★★★
日本	キリンビレッジ 湘南工場	★★★★★	★★★★★	★★★
オーストラリア	ライオン Castlemaine Perkins Brewery	★★★★★	★★★★★	★★★
中国	麒麟啤酒 (珠海) 金鼎工場	★★★★★	★★★★★	★★★
アメリカ	New Belgium Brewing Fort Collins	★★★★★	★★★★★	★★★

※水ストレスは、利用可能な水資源量について評価する3つの指標（AqueductのBaseline water Stress, Water Risk FilterのBaseline Water DepletionとBlue Water Scarcity）を用いて評価
 ※取水量は、水ストレスが高い14拠点の総取水量に対する割合
 ※生物多様性は、製造拠点の流域のIUCNレッドリストに基づいて算出された指標（START (Species Threat Abatement and Restoration, threat-abatement: 脅威の軽減) とSTARR (restoration: 復元)）のスコアと、製造拠点の流域から半径50km圏内に魚類、両生類、カメ、甲殻類、トンボなど水域に生息するBiodiversity elements triggering KBA criteriaが存在するか否かで評価

回避 (Avoid)

キリングgroupの原材料は農産物や森林に依存しています。2013年に制定した「生物資源利用行動計画」に基づき問題ある生物資源利用を避け、持続可能な生物資源の利用を目指します。

- 取り組みとコミットメント**
- 貴重な森林資源利用を回避するために、グローバル主要事業で2030年までにFSC認証紙または古紙使用率100%（国内酒類・飲料事業は達成済み）
 - 熱帯雨林伐採を避けるために、国内事業において1次原料、2次原料で、RSPOの認証クレジットで100%対応継続*（現時点で達成済み）
※パーム核油除く

軽減 (Reduce)

自然環境への負荷を完全にゼロにできない場合は低減を図ります。科学的な目標設定のフレームが構築されれば、それに沿って目標を再設定します。

- 取り組みとコミットメント**
- スリランカ紅茶小農園で、2025年までにレインフォレスト・アライアンス認証取得支援数10,000農園（大農園は同国認証済み農園の約30%がキリン支援で取得）
 - 水ストレスの高いライオンで、2025年までに用水原単位を2.4kl/klに。協和バイオで2030年までに水使用量を2015年比32%減（酒類・飲料、医薬事業でも水ストレスに合わせた目標設定済み）
 - 国内酒類・飲料事業で、フードウェイストを2025年までに2015年比75%削減

復元・再生 (Restore & Regenerate)

原料生産地で、生態系や水資源の復元に取り組んでいます。国内工場の水源地保全活動や、国内ブドウ畑でもNGOや地域と共に植生再生活動を実施しています。

- 取り組みとコミットメント**
- 自社管理ブドウ畑のブドウ収穫量を、2024年で160tに（単作栽培のブドウ畑は畑を広げることで草原が広がり生態系が豊かになる）
 - スリランカで、2022年から2024年累計で、農園内水源地保全を15カ所、水を大切に教育を20,000名へ、野生動物保護教育を200人へ

変革 (Transform)

自然資本の取り組みは、企業だけではなく社会や地域で取り組む必要があります。多くのステークホルダーとの協働を進め、新たな情報開示枠組みにも貢献していきます。

- 取り組みとコミットメント**
- The TNFD Forum加盟企業として、パイロットプログラムへの参加で自然関連財務情報開示フレームワーク構築に貢献
 - SBTs for NatureのCorporate Engagement Program参加企業として、自然資本の科学的目標設定フレームワーク構築に貢献
 - 持続可能な紙や紅茶葉のためのコンソーシアム設立企業としての経験を生かし、その他のテーマでもNGOや他企業と協働